

百人一首 (歌番号 : 81 ~ 85)

よもすがら
 ものおも(う)
 物思ふころは
 ああ
 明けやらで
 ねやのひまさへ
 閨のひまさへ
 つれなかりけり

しゅんえほうし
 俊恵法師



ねやのひま
 さえつれな
 かりけり

ながらへば
 またこの頃や
 うしのばれむ
 うしと見し世ぞ
 憂しと見し世ぞ
 今(いま)は恋(こい)しき

ふじわらのきよすけあそん
 藤原清輔朝臣



うしとみし
 よぞいまは
 こいしき

世(よ)の中(なか)
 道(みち)こそなけれ
 おも(い)入(い)
 思(おも)ひ入(い)
 やまのおく
 山の奥にも
 鹿(しか)ぞ鳴(な)くなる

こうたいごうぐうのだいぶしゅんせい
 皇太后宮大夫俊成



やまのおく
 にもしかぞ
 なくなる

おも(い)わび
 思(おも)ひわび
 さても命(いのち)は
 あるもの
 うき(う)きに堪(た)へぬは
 憂(なみだ)きに堪(た)へぬは
 涙(なみだ)なりけり

どういんほうし
 道因法師



うきにたえ
 ぬはなみだ
 なりけり

ほととぎす
 鳴(な)きつる方(かた)を
 眺(なが)むれば
 た(た)だ有(あり)明(あ)け
 の
 つき
 月(つき)ぞ残(のこ)れる

ごたくだいじのきだいじん
 後徳大寺左大臣



ただありあ
 けのつきぞ
 のこれる